



第423号 「がんばろう、日本!」 国民協議会 機関紙

発行所「がんばろう、日本!」 国民協議会 発行人 戸田政康 編集人 石津美知子 http://www.ganbarou-nippon.ne.jp (東京事務所) 東京都千代田区九段北4-3-16 サンライン第14ビル6階 〒102-0073 TEL 03(5215)1330 FAX 03(5215)1333 (発行所) 東京都東大和市南街2-17-16 パピルス会館 〒207-0014 TEL 042(566)2950(代) FAX 042(566)2949

はじまつたフォロワーシップの転換 それに呼応、連携できるリーダーシップの始まりの始まり、

「新しい現実」を創る連帯と協働の場づくり

安倍政権が醸し出す？ フォロワーシップの転換

七月の各種世論調査で、安倍政権の支持率が50%を割り込んだ。特定秘密保護法が成立した昨年十二月に次ぐもので、集団的自衛権の行使容認に踏み切ったことが要因のひとつだろう。注目すべきなのは、そこに醸し出されているフォロワーシップの転換だ。「反対派の論拠は、安全保障政策論ではなく『手続き』論にすぎない」という見方では、肝心なものは見えてこない。

「決定」のプロセスで特徴的だったのは、「安倍話法」ともいべき議論の積み重ねだ。小林節先生は京都・囲む会で「最近ではあれは確信犯だと思ふようになりました。話をかみ合わせたら負けるから、かみ合わせない。最後まで土俵に上がらずに、回りを走り回っている感じ」(10面参照)と述べている。「集団的自衛権の行使は可能である」と憲法解釈を変更してしまつた以上、時の政権担当者がするのは、『集団的自衛権を

行使するのはどうしてですか?』と説明するだけで、『集団的自衛権が行使できるのか、それをしていいのか』という議論をする必要なんかありません。『憲法解釈変更』の段階で、その議論をする必要がなくなっているのですから」

『集団的自衛権行使に関する与党協議』を見ていると、日本の議論は『説明する側の一方的な説明』だけがあって、しかもこれが『これはどうですか?』と選択肢を広げられる値引き交渉に近いものだとも思われます。いつの間にか日本人は『議論をする能力』や『議論として成り立っているかどうかを判断する能力』を失ってしまったのでしょ(橋本治 78朝日)

国民が当事者として議論する機会、場を持たないような問題提起。そこから醸し出されるのは、それに満足するフォロワーシップ(賛成にしろ、反対にしろ「他人事」)なのか、それに

満足しない—当事者としての参加を求めるフォロワーシップなのか、というフォロワーシップの分岐の始まりだ。

すでに議会報告会が標準装備となりつつある地域民主主義の現場では、一方通行の報告にとどまるのか、住民と議員がいっしょに地域の課題を話し合う場、という次のステージが見えているか、という段階にはいつている。フォロワーシップの転換とともにリーダーシップも、当事者意識を涵養し、参加型の合意形成を促すリーダーシップへと転換しつつある。

フォロワーシップの転換は、こんなふうではないだろうか。「権力は、権力をもたらず— 常々そう思っていたけれど、その瞬間をまざまざと見せられた感じがした。

『僕に任せなよ。僕が決めるから。キミたちもそのほうが幸せになれるよ。だって、キミたちのことを、いちばん考えているのは僕なんだよ。キミたちが危険な目にさらされないように、僕がちゃんと考えて、判断して決めるから。何も心配なくて大丈夫だよ』

『だって、キミたちを守って

いる『武器』(＝憲法)は、かなり旧式のやつで、使いものにならない。そのことがわからないのか? いかなる事態にあって、国民の命と平和な暮らしは守り抜いていくからさ』

そんな風になためられている気がした。そう。先日、集団的自衛権容認の閣議決定を受けて、安倍首相が行った記者会見である」

「だが、それ以上に私たちは、権力者のいいなりになるしかないのだろうか?」と、とてつもない不安と無力感を抱いたのである。

私の認識が間違っていないければ、憲法は国のルール。『一部の権力をもった人が暴走して、強い立場にいる人の言いなりに、弱い立場の人たちがならなくいいようにするために存在する』と、小学校で教わったと思うのだが、それが皮肉にも権力によって空洞化した。

それは、権力が占有化された、ことを意味する。権力の占有化は、大きな問題をもたらす。無力化、だ」

(ユダヤ人虐殺を指揮したアイヒマンは殺人鬼ではなく、「命令どおり動いただけ」という彼

(発行所)
東京都東大和市南橋2-17-16
パピルス会館 〒207-0014
TEL 042(566)2950(代)
FAX 042(566)2949
〈郵便振替〉00160-9-77459
「がんばろう、日本!」国民協議会
ゆうちょ銀行 019店 当座0077459

1部 300円
定期購読 半年2,000円
一年3,500円

今号の紙面	
2-3面	「市民主体の防災計画」 西原茂樹・牧之原市長
4-6面	「地域経済と地域自治」 岡田知弘・京都大学教授
6-10面	「公共施設更新計画」 岡田直晃・東洋大学リサーチ・パートナー
10-14面	「立憲主義の当事者意識」 田村会 小林節・慶応大学名誉教授

の凡庸さこそが悪であることを説き、どんなに批判されても考え続け、発信し続けたハンナ・アーレントを描いた映画「ハンナ・アーレント」から「絶対的権力による無力化。無力化による思考停止。考えるのやめはする人間が、考えるのを止めたとき、悪が生まれる。そう説いたのである。『中略』『自分も考えることを、止めているのではないか?』とアーレントの言葉に耳を傾けながら、自分に問いかけた人が多かったのではあるまいか(河合薫 日経ビジネスオンライン)⑧

自分の人生のオーナーですらなくなる。「少なへとも私には『アナタの幸せをいちはん、考えている』という人を信じない。どんなに惚れた男でも、そう言われた途端、覚める。幸せは自分で考える。それくらい頭の硬い、ちゃんがあるぞ…」(同前)

地域民主主義の現場では、フォロワーシップの転換はすでに実践的に深められ、可視化されている。国政の課題においても、当事者意識を涵養する議論の場づくりとは、そのための論点整理とは、ということを実践的に深めていく舞台が見えつつある。9/14シンポジウム「外交・安全保障」⑧ 関西経社セミナー(原発)は、その試みのひとつだ。

「新しい現実」を同時多発的に生み出す フォロワーシップの転換 その合意形成を促していくリーダーシップ

成長戦略第二弾の目玉は「女性の活躍」と「地域再生」だ。しかし、女性の社会進出のため「働く母親のために家事を担う外国人労働者の雇用を可能にする」(英フィナンシャルタイムスへの安倍首相の寄稿)というのでは、いかんともしがたい。「家事を担う外国人労働者を雇える母親」って誰のこと?。当然、「産め」の次は「働け」? 配偶者控除見直し? 安倍政権に言ってるんだ! 保育園整備が先だろー! ワーキングマザーぶちまけ座談会」(ダイヤモンドオンライン

ン723)という反応が、返っていることになる。

実際「女性の活躍」を掲げる一方で、来年度からの新制度で認定子ども園への補助水準が低下するため、運営の見込みが立たず、認定返上を検討する施設が増えているという。認定返上が相次げば、待機児童の解消に逆行するうえ、子ども園が担う子育て家庭への支援事業まで後退しそうだ。

もちろん自治の現場では、これまでにも増して知恵が絞られるだろう。子育て支援は、地域の持続可能性のためにも重要な

施策だ。これまでも、さまざまな補助制度を活用して財源を確保し、独自の施策を行ってきたし、国の制度がどうであれ、これからもさらに知恵を絞るだけだ。それでも足りなければ、独自財源で手当てする。それには当然、何かを削る合意形成→優先順位を再定義する合意形成が必要になる。ここには「女性に産めよ、育てよ、そして、働け、しかし、母性は重要だ、という矛盾というよりも支離滅裂なことを平気で連呼する程度」(小笠原泰・明治大学教授 ハフフィンントンポスト7/23)の「議論」の余地はない。

例えば島根県邑南(おおな)町の取り組みは、永田町・霞ヶ関・丸の内とは対極にある。邑南町は人口一万強、高齢化率40%超の過疎のまちだ。日本創生会議の予測によれば、二〇四〇年までに若年女性人口が58%減少すると見込まれる、まさに「消滅可能性」の自治体ということになる。ところが邑南町は「ここたえております」(出雲弁で「がまんしてやりとげ」)。

移住策を積極的に進めた結果、ずっとマイナスだった社会動態をついにプラス20に転じ、42・1だった高齢化率の予測値を40・8に抑えている(いずれも平成25年度の数値)。邑南町の移住策は「日本一の子育て村」をうたうとともに、シングルマザー歓迎を打ち出して、子育て支援策のみならず、就職や住まいなど、さまざまな面での支援を行っている。これは「女性、子どもは貧困はあってはならない」との町長の信念と、地域の人々の「おせっかい」にも支えられているのだろう。八つの小学校、三つの中学校すべてに図書館司書を置くなど、教育環境にも力を入れている。

「女性」も「地域」(中山間地)も、これまでの20世紀型規模・

効率の経済では、条件不利とされてきた。こうした旧来の経済社会構造の延長で、その活躍や再生は可能なのか。むしろ、規模・効率の経済では切り捨てられてきた多様性、分散性を持続可能性・循環性へと組み替えるところから、「新しい現実」が始まるのではないか。若者は都市志向であるという旧来の価値観による「地域拠点都市」構想や「地方元気戦略」は、3/21を契機に「田舎の田舎」へ若者の移住の流れが始まっているという「新しい現実」に、すでに追い越されている。

米大手の中国子会社が期限切れの食肉を使用し、それが大手ファストフードチェーンの製品として提供されていた問題は、水や食、エネルギーといった生存の基盤を力外に委ねている社会の危うさを、改めて浮き彫りにした。「基本的な財であるエネルギーや食料を、地方でどう調達していくか。そのために、荒廃した山村の自然エネルギーをどう生かすか。そして荒廃した農地をいかに生かして食料自給率を高めていくか。ここに政策的資源をどれだけ入れていくか。ヨーロッパ諸国が普通にやっていることを、まったくやっていないのが日本です。

これまでは「安ければいい」ということで海外依存を強めてきましたが、これにブレーキをかけ、転換していく時期ではないか。地域のなかで暮らしを立てていく、地場産業をしっかりと作っていく。海外との付き合い方も、日本の地域の持続性を第一におきながら、必要なら「は取引していく必要がある」(岡田知弘・京都大学教授 4-6面参照)。

この転換の担い手は、国・中央政府・東京ではなく、地方であり、無数の地域自治の担い手である。そこに必要なのは「強

□日程のお知らせ□

- ◆「日本再生」読者会・東京(会費 無料)
8月3日(日) 午前10時より 「がんばろう、日本!」国民協議会事務所(市ヶ谷)
- ◆越谷「日本再生」読者会(会費 200円)
8月11日(月) 午後7時より 白川秀嗣事務所
- ◆船橋「日本再生」読者会(会費 300円)
8月21日(木) 午後7時より NPO 法人情報ステーション船橋北口図書館
- ◆北九州「日本再生」読者会(会費 500円)
8月9日(土) 午後3時30分より 小倉商工会館
- ◆京都・青年学生読者会(会費 無料)
8月7日(木) 午後7時より 同志社大学寒梅館
- ◆大阪「日本再生」読者会(会費 500円)
8月6日(水) 午後7時より ドーンセンター

*** 以下は事前のお申し込みが必要です ***

- ◆第141回 東京・戸田代表を囲む会【会員限定】
「世なおしは、食なおし。自分の暮らしを取り巻く環境に主体的に“参画”する。」
ゲストスピーカー 高橋博之・NPO 法人東北開墾代表理事、「東北食べる通信」編集長
9月8日(月) 午後6時45分から9時 「がんばろう、日本!」国民協議会事務所(市ヶ谷)
参加費 同人1000円/購読会員2000円

- ◆第102回 講演会・シンポジウム
「緊張する東アジア情勢に、どう向き合うか～『戦略なき夢遊病』に陥らないために」
9月14日(日) 午後1時から5時 アルカディア市ヶ谷(私学会館)6階「阿蘇」
参加費 2000円
《パネルディスカッション》
中西寛・京都大学教授、大野元裕・参議院議員、李鍾元・早稲田大学教授 ほか

- ◆関西政経セミナー
「“コンセンートの向こう”は、どうなっているのか～3.11後の原発を、エネルギー自治の当事者として考える」
8月30日(土) 午後1時30分から5時30分 コープイン京都
参加費 1000円

シーじゃないですか。

13面から続く

戸田 官邸前のデモも、欠点を言おうとすればいろいろあるけれど、要するに続くわけですよ。何かの組織があつてという事でなくて続く、というのははじめてじゃないですか。これも大きな力になりますよ。

憲法をめぐる論議というのは、これまではなかなかうまく回らなかったんですが、今日はそれなりにかみ合ったと思います。小林先生もおっしゃるように、九六条先行改憲の話から、変わり始めてきていると思います。

九月十四日、東京でのシンポジウムで

は、この土台のうえで国際政治の切り口からということも、試してみようと思っております。

(7月14日。文責は編集部。紙幅の関係で、一部割愛しました。)

1面から続く

「新しい現実」を同時多発的に生み出すフォロワーシップの転

当事者意識を涵養する
アーリーナとしての地方議
私的関心と公的決定を媒

来年、二〇一五年四月には統一自治体選挙が行われる。今回の最大の特徴は、東京都知事選がない、ということだ。すなわち永田町の従属物としての都知事選(たぶん)は、まて抜きて、

地 形 民 形 地
え な 民 形 地

ら て 換

続く
換であり、その合意形成を促し
ていくリーダーシップにほかな
らな。

査する

の地方議会

決定を媒介する場づくり

地域の課題をどう取り上げ合意
形成をはかるのかという、地域
民主主義の力が試される選挙に
なる。

二〇一五年、中山間地域を支
えてきた昭和一ケタ世代が全員

80代になり、次世代の支え手が
待たないの課題になる。そし
て都市部では団塊世代が全員、
65歳以上の高齢者となり、田舎
を超える高齢化率の地域（限界
団地など）も出現する。「無縁
社会」はさらに深刻になる。

（衆参国政選挙をばさんで）
次の選挙は二〇一九年、二年後
にはいよいよ東京も人口減少が
始まると予測されている。少子
高齢化・人口減の現実は、これ
まで以上に急速な変化となって
現れてくるだろう。それに備え
て二〇一五年の時点では、どこ
までの・どのような合意形成を
準備しておくのか。

■問い合わせ 03-5215-1330

「コンセンソの向こう」は、どうなっているのか〜3.11後の原発を、エネルギー自治の当事者として考える」

8月30日(土) 午後1時30分から5時30分 コープイン京都

参加費 1000円

《問題提起とパネルディスカッション》

植田和弘・京都大学教授、大島堅一・立命館大学教授、福山哲郎・参議院議員

佐藤暁・原子力コンサルタント(元原子炉メーカー技術者)

◆シンポジウム

「里山・林業の再生から地域再生・新しい地域経済を考える」(仮)

11月24日(月・祝) 午後2時から午後6時 コープイン京都 2階

主催 「がんばろう、日本!」国民協議会、京都府電気工事工業協同組合、全京都建設協同組合

第一部 講演/太田昇・真庭市長、中島浩一郎・銘建工業社長

第二部 パネルディカッション/太田市長、中島社長、岩崎憲郎・高知県大豊町長、
諸富徹・京都大学教授、前田武志・参議院議員 ほか

参加費 1000円

このような位置づけが見えて
の選挙となるか、それとも相変
わらず、目の前のことだけに終
始して四年間をさらに失うの
か。まさに自治のカーフォロ
ワースhipとリーダーシップが
試される。

ガバナンスという言葉は「統
治」と訳されるが、コーポレ
トガバナンスが「企業による消
費者統治」ではなく「株主に
よる経営者統治」であるよう
に、ローカルガバナンスも主権
者たる住民が自治体政府を統治
する、ことじほかならない。憲
法とは何か、立憲主義で三権分
立が機能するとはどういうこと
か、そこでの主権者の選択―選
挙とは何なのか、あるいは議会
を機能させるとはどういうこと
か。こうした憲法常識(10―14
面)が広まりつつあるなかで迎
える地方選挙でもある。

住民主体で「津波防災まちづ
くり計画」を作った牧之原市で
は、以前から市民が運営進行す
る市民協議会(男女協働サロン)
を積み重ねてきた。西原市長は、
「男女協働サロンは地域の合意
形成をはかる新しいボスの仕組
み」だと言う(2―3面参照)。
地域の合意形成プロセスは、単
純な多数決でもないし、声の大
きい人や強い立場の人の意見が
通るといってもなく、フラット
な関係のなかで情報を共有し
ながら、「それならしかた
ない」ということも含めて「納
得」していくプロセスだ。

こうした自治の基盤の上によ
うやく、政党とは何かというこ
とも見えてくる。

「〜こうした発想は政党が支
持者に利益をもたらすべき存在
だと考えているという点で、現
実の変化の半分しか見ていな
い。そもそも政党を通じた利益
配分自体が困難になっている以
上、有権者の利害と政党の機能
を切り離した、新しい政党像が
中長期的には必要なのではない

か。

今後の政党は、①政府の運営
のあり方や、政策の将来像につ
いての情報を集め、それを有権
者に提示する機能②有権者にそ
れらの情報に基づいた熟議の場
を与える機能③そしてそれを政
策決定に反映させる機能を中心
に考えられるべきだろう。利害
の媒介者ではなく政策をめぐる
フォーラムの運営者、あるいは
個々の有権者の私的な関心と公
的な政策決定の空間の媒介者こ
いう役どころである」(待鳥聡
史・京都大学教授 朝日79)

これらの機能は、まさに「当
事者感覚を生み出すアリーナ
としての地方議会」(廣瀬克
哉・法政大学教授 「日本再生」
四二〇号)で現に実践的に深め
られてつつある「新しい現実」に
ほかならない。この集積の上に、
政党政治の次のステージを再構
築する方向性も展望されてくる
だろう。

「政党間の差異は、社会の大
きな方向性に関する考え方、情
報提供や議論のスタイル、集う
人の相性などから生まれ、具体
的な政策に関しては当面の優先
順位の違いが残るにとどまるの
ではないか。明確な理念や政策
を掲げ、固定的な支持層を得て
長く存続する政党は例外的にな
る。

フォーラム化した政党には、
より多くの、様々な人々が集ま
る方がよい。政権と官僚に適度
な緊張感を与える効果を含め、
二大政党が多様な有権者をそれ
ぞれ内部に抱えるというあり方
が、再評価される余地は十分に
ある」(待鳥・前出)

私的関心と公的決定を媒介す
る場、それは言論空間でもあり、
公共空間でもある。そうした場
づくりの多様な実践と集積の一
里塚として、来年の統一自治体
選挙を準備していこう。